

R2年度 学校自己評価表(最終評価)

学校運営計画				
学校運営方針	授業改善と学習意欲向上の取組を通じて、生徒の学力伸長を図り、「進学も就職も生徒の第一希望を確実にかなえる学校」として支援するとともに、部活動や地域連携の活動等により、活気にあふれた学校づくりを進める。			
昨年度の成果と課題	今年度の重点目標	具体的目標		
<p><成果></p> <p>①令和4年度入学生に向けた教育課程の検討を行った。</p> <p>②個別指導により、進学と就職の希望に沿った支援ができた。</p> <p>③吉田高校サポート協議会と連携し、模擬面接にかかわる地域の協力が進んだ。</p> <p>④商業検定や実用英語検定は、個別指導により確実に合格者を出すことができた。</p> <p>⑤いじめ認知案件について、速やかに情報を共有し組織的に対応することができた。</p> <p>⑥長期欠席者と休学者が0であった。転出・退学者が大幅に減少した。</p> <p><課題></p> <p>①家庭学習の習慣を定着させ、確実な基礎学力を身に付けさせる。</p> <p>②2年生のインターンシップ希望者を増やす。</p> <p>③部活動加入率を増加させ、運動部、文化部の活動を活性化させる。</p> <p>④生徒の情報を共有し、保護者との連携を図る。</p> <p>⑤県の事業費を活用し、地域連携を授業に取り入れる。</p> <p>⑥教職員の校内研修の充実。</p> <p>⑦転出、退学者の減少に努める。</p>	育てたい生徒像を踏まえた教育課程の改訂と生徒の学ぶ意欲を高める学習指導の研究	3コースの特色に応じたR4年度入学生の教育課程を作成する。		
	主体的・対話的で深い学びを意識した授業改善を行う。			
	生徒指導における一貫した指導体制の推進	基本的な生活習慣を身に付け、いじめ防止基本方針に沿って、適切な対応をする。		
		生徒の指導に関する校内研修の充実を図る。		
	生徒の進路実現に向けた組織的取組の確立	インターンシップや地域を知る活動をとおして、地元へ貢献する意識を高める。		
		個別の進路相談を充実させ、生徒の進路実現を支援する。		
生徒会活動や部活動の奨励および活性化	生徒会活動や部活動への参加を促す。			
	学校行事の活性化を促し、学校生活への満足度を高める。			
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	
教務	円滑な学校運営に努める。	・教育課程を実践する上で効果的な年間行事計画や時間割の作成に努める。 ・行事を含めた様々な教育活動が円滑に実施できるように、他の分掌や学年との連携を図りながら、単位履修に必要な授業時数を確保する。	A B A	
	地域や保護者との連携を図り、開かれた学校作りに努める。	・PTA専門部を中心に、地域や保護者の力を積極的に活用することで、教育内容の充実を図る。 ・学校案内の作成や公開授業・中学生体験入学の実施、PTAだよりの発行など、様々な情報発信を通じて保護者や地域との連携を深め、良好な関係作りに努める。 ・中学生体験入学参加者の事後アンケートの結果を分析し、実施内容や方法の改善に努めるとともに、参加者アンケートにおける評価「良かった」が8割以上をめざす。	A A A A	
	図書・視聴覚の環境整備に努める。	・教育活動を行う上で必要な図書・視聴覚教材や情報機材などを適切に管理し、利用しやすい環境整備を行う。 ・図書館報「あかつき」や新着図書情報の発行など、図書情報を適宜発信することで、図書の有効活用を促す。	A A	
	生徒指導	目に見える指導を実践し、その情報を発信する。	朝の立哨指導と昼休みの巡回指導を行い、遅刻の防止、挨拶の励行、望ましい身だしなみの定着を図る。	B
			服装頭髪やアルバイト・免許等について学校の指導方針の周知徹底を図る。	B
			「生徒指導通信」を年4回程度発行し生徒指導の方針への理解を促す。	B
ルール遵守の意識と責任感の養成を図る。		携帯電話の校内での使用制限について、徹底するよう指導する。	B	
薬物乱用防止講話を実施して、薬物汚染の怖さへの理解を深めさせる。	B			
免許保有者のバイク実技講習会への参加率を100%にする。	B			
服装頭髪検査を年間5回実施するとともに、継続的に指導する。	B			

↑ 教務 ↓ 学校生活

評価項目	具体的目標			
保健指導	保健管理と環境の清潔維持を図る。	健康診断結果の活用や健康相談活動を通し、疾病治療と規則正しい生活習慣の確立を目指すとともに、生徒の抱える問題に対して個に応じた指導にあたる。	A	A
		校舎内外の清掃や生活環境整備を徹底し、学習と生活両面の環境維持に努めるとともに、感染症の蔓延を防ぐ。	A	
生徒会	部活動及び生徒会活動・学校行事の活性化を促し、学校生活への満足度を高める。	体育祭と文化祭の内容充実に取り組みさせ、生徒の参加意識の向上を図る。また、地域行事への参加により、人との触れあいや社会貢献の態度を育てる。	A	A
		全校集会等で各部活動の紹介・激励を積極的に行い、部活動への参加を促し、部室整備など部活動が実施しやすい環境作りを進める。	A	
進路指導	キャリア教育を推進し、学習意欲の向上につなげる。	『進路のしおり』を作成し、進路指導に有効活用を図る。	A	A
		進路ガイダンスを各学年、年間1～3回実施するとともに、内容を厳選し充実を図る。	A	
		進路情報室の資料・施設を一層充実させ、有効な利用方法の指導に努める。	A	
	個別の進路相談を充実させ、生徒が第一希望とする進路の実現を支援する。	進学補習・模試受験指導・推薦入試指導などを計画的に実施する。	A	A
進路・学年・保護者間で緊密な連携を保ちながら進路指導を行う。		A		
企業研究・職場見学等を充実させ、就職希望者全員の進路実現を目指すとともに、一次合格率60%の内定を目指す。		B		
学年	基本的な生活習慣と規範意識を身に付ける。自らの進路目標をもち、その実現に向けて努力する。	(1年) 基本的な生活習慣の確立と進路を見据えた基礎学力の定着を目指す。	B	B
		(2年) 基本的な生活習慣および学習習慣を確立させ、自己の進路に関心を持ち、進路実現に向けての意識を高める。	B	
		(3年) 出席率の向上を図り、社会性を身につけさせる。学習習慣を確立させる。生徒全員の卒業並びに進路実現を目指す。	B	
道徳・人権教育	様々な体験や思索の機会をととして、人間としての在り方生き方を主体的に探求し、豊かな自己形成ができるようにする。他者を尊重する人権感覚を身に付ける。	(道徳) 教科・科目において体験的な学習を重視するほか、就業体験やボランティア活動などに参加しやすい学校づくりを行う。	A	A
		(人権) 生徒及び教職員対象の人権教育、同和教育研修会を全校対象1回実施するほか、学年ごとに1回以上実施する。	B	
総合学習探究学習	地域・社会・文化に関する総合的な学習及び自己の在り方生き方について考察する活動を通じて、自己の進路を主体的に探究し、地域・社会が抱える課題について解決策を考察するための資質・能力を育成する。	(1年) 校外研修や地域講演会などを行い、地域や企業の課題を発見し、自分(たち)にできることを主体的に探究する。	B	A
		(2年) 地域社会の課題に取り組みつつ、自己の在り方・生き方を考える。	B	
		(3年) 小論文学習や面接練習、出願書類作成練習を繰り返し、全生徒の進路実現を目指す。	A	
国語	国語を適切に理解し表現する能力を育成するとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重して、その向上を図る態度を育てる。	年間指導計画に基づき、漢字学習や語句の意味調べ、長期休業課題など、自ら進んで学習活動に取り組めるように課題を工夫することで、基礎学力の向上に努める。	A	A
		生徒が目標を持って学習に取り組めるように工夫する。漢字検定の受検者が、年間30名以上をめざす。	B	
地歴公民	地理歴史科：日本と世界の基本的な地理や歴史の理解を深めさせ、生涯役立つ知識を習得させる。 公民科：人権・地球環境問題・グローバル経済など今日の日本と世界の課題を学ばせ、主権者としての知識を身につけさせる。	生徒に記憶させるだけでなく、理解をさせるように、わかりやすく丁寧な授業実践をめざす。	B	A
		ノートやワークシートなどの提出を9割以上にする。	A	
数学	数学的活動を通して、数学における基本的な概念や原理・法則の体系的な理解を深め、事象を数学的に考察し表現する能力を高める。	丁寧な授業を心がける。	A	A
		課題提出90パーセント以上を目指す。	A	
理科	自然の事物・現象についての理解を深め、観察、実験を通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する。	自然と人間生活を関連付けながら、基本的な概念や原理・法則を理解する。	B	A
		観察、実験などを行い科学的に探究する力を養い、科学への興味・関心を高める。	A	
保健体育	幅広いスポーツの実践や理論の学習を通して、より高い技能及び知識の習得をはかる。また、健康・安全に関する基礎知識を学ぶ。	運動の楽しさを理解させ、生涯スポーツに取り組む姿勢を育成する。	A	A
		社会生活における健康・安全に関する基礎知識を習得させる。	A	
芸術	芸術の鑑賞、表現、創作活動をととして、豊かな心や創造力を育成する。	表現、創作活動を行い、互いにその成果を認め合うよう指導する。	B	B
			B	
外国語(英語)	基礎的な語彙力や文法力を習得し、英語を通じて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。	基礎学力の定着を目指し、ていねいにわかりやすく指導する。	A	B
		英検を積極的に受検するよう指導する。	B	
家庭	社会人及び家庭人として必要な基礎的教養を習得させ、豊かな人間性を育成する。	実験・実習を5割以上入れて、実践的能力を育成する。	C	B
		衣食住、家族・保育、消費生活と環境など家庭生活についての関心と理解を深めさせる。	B	
		生活文化の継承と創造に必要な基礎的技術を身に付けさせる。被服検定3級と食物調理検定3級の合格率100%をめざす。	B	
商業・情報	商業の各分野に関する基礎的な知識・技能を習得させ、職業人として必要な心構えを育成する。また、資格を活かして商業系大学への進学及び就職を目指す。	学習到達度を高めるために各種検定を受検させ、商業に関する基礎的な知識・技能を習得させる。検定合格率が100%になるよう指導する。	A	B
		ワープロ・表計算・プレゼンテーション・ネットワーク管理などの実務に必要なソフトの活用能力を育成する。	B	
		社会人・職業人として要求される知識・能力・態度を身に付けさせる。	B	
成果	・令和4年度入学生の教育課程を作成し、教育委員会から同意を得た。 ・進学希望者に対して個別指導を実施し希望する学校から合格を得た。また、新潟大学に1名合格者を出すことができた。 ・就職希望者に対して、吉田高校サポート協議会と連携し、模擬面接を実施し、全員が卒業までに内定を得た。 ・感染症対策を講じながら、生徒会で吉高祭を運営し達成感を得た。商業検定や家庭科技術検定に丁寧な指導をした。 ・2年生の「総合的な探究の時間」では、地域の課題について体験的・探究的な学習をし、発表することができた。 ・生徒指導案件がほとんどなく、生徒は落ち着いた学校生活を送ることができた。	総合評価 B		

↑ 学校生活 ↓
 ↑ 進路指導 ↓
 ↑ 学年 ↓
 ↑ 道徳 ↓
 ↑ 教人育権 ↓
 ↑ 地域連携 ↓
 ↑ 教科ごとに記入する。1つは数値目標を盛り込む。 ↓